

パワエレシステムと パワー半導体事業を核に して、安全・安心で持続 可能な社会の実現に貢献



はじめに、このたびの新型コロナウイルス感染症に罹患（りかん）された方々に謹んでお見舞い申し上げますとともに、医療従事者の方々、ならびに私たちの生活を支えてくださっている方々に深く感謝申し上げます。

富士電機は、古河電気工業株式会社とドイツのシーメンス社との資本・技術提携により、1923年の創業以来、エネルギー・環境技術を革新し、産業・社会インフラの分野で広く世の中に貢献してまいりました。

今日、世界では気候変動や都市化の問題、高齢化による人口構造の変化など、さまざまな変化が起こり、企業にも社会の一員として、こうした課題解決に積極的に取り組むことが、従来以上に求められるようになってきました。

当社は、経営理念に“豊かさへの貢献”“創造への挑戦”“自然との調和”を掲げており、2019年度は、SDGs達成への貢献、ならびに「パリ協定」が目指す地球温暖化対策としての温室効果ガス排出量の削減を骨格とした“環境ビジョン2050”を発表しました。同時に、令和元年を初年度に、創立100周年を迎える2023年を最終年度とする5か年の新中期経営計画“令和・Prosperity2023”をスタートさせました。ここには、エネルギー・環境事業で社会と共に繁栄（Prosperity）を目指す、という思いを込めており、経済成長と社会・環境課題の解決を両立させ、持続可能な社会の実現に貢献することを内外に表明しました。

成長分野と位置付けるパワエレシステム事業、パワー半導体事業へのリソースを傾注し、パワー半導体

とパワーエレクトロニクス技術のシナジーを追求し、キーデバイスを活用した高効率機器に、これまで培ってきたエンジニアリング・サービス、最適制御技術、IoTを組み合わせ、エネルギー・環境課題の解決に貢献するシステム事業を拡大させています。また、自動車の電動化が加速していく中で、xEV向けパワー半導体の開発強化と生産能力の増強を行い、さらに、船舶向けでは、環境規制に対応した排ガス浄化システムの本格展開を行いました。

新型コロナウイルス感染症は、私たちの予想しえない状況を創り出し、これまでの行動様式の転換が求められる時代になってきました。私は、こうした困難な時代にあっても、社員や家族の安全と健康を最優先として、“ピンチをチャンスに”の考え方のもと、中長期視点に立ち、研究開発、ものづくり力の強化に、チーム力をもってチャレンジしてまいります。

富士電機の経営理念のスローガンには、“熱く、高く、そして優しく”を掲げています。新しい技術や製品を生み出すことにより社会に貢献するという“熱い気持ち”、“高い目標”を掲げてどんな困難にも立ち向かっていく気概、そしてお客さまや仲間、支えてくれている家族に感謝し、大切に思う“優しさ”です。とりわけ私は、この優しさは当社のDNAであると考えます。

このスローガンの下、多様な人材がチームとなり、安全・安心で持続可能な社会の実現に貢献していく所存です。皆様のご指導、ご鞭撻を心よりお願い申し上げます。

代表取締役社長

北澤通宏



*本誌に記載されている会社名および製品名は、それぞれの会社が所有する
商標または登録商標である場合があります。